

令和4年6月16日
(一社) 京都府バスケットボール協会

第61回 京都府バスケットボール選手権大会
第98回天皇杯・第89回皇后杯
全日本バスケットボール選手権大会
京都府代表決定戦における

新型コロナウイルス対策ガイドライン

JBA「バスケットボール事業・活動実施ガイドライン（手引き）第5版（2022年5月12日作成）」に基づき、以下のように感染防止対策を講じる。

1 大会運営全般について

- (1) 感染対策責任者を競技部競技運営委員長とし本部に設置する。
- (2) 参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、保健所と予め検討する。
- (3) 万が一感染が発生したときには、保健所からの要請に従い、感染拡大防止に協力する。
- (4) 消毒等感染防止に必要な物品は、管理者が準備する。

2 会場運営について

(1) ゾーニング

体育館フロアーへの入場は「入場許可証（選手・役員）」のみ認める。

(2) 試合間にゆとりを持たせる。

- ① ハーフタイムアップはなしとする。

- ② 観客席での W-up は禁止とする。
- ③ 試合コートへは、前試合後の消毒作業終了が確認されてから入場する。
- ④ 各試合終了後、試合が終わったチームは、速やかにフロアーから退場する。

(3) 大会・競技役員も最小限の人数で行う。

- ① TO (テーブルオフィシャル) は、前試合負けチームが行う。なお、TO 要員以外のメンバーは、速やかにフロアーから退場する。
- ② CK (コートキーパー) は、審判員の指示に従い自チームで行う。

(4) 会場は、試合進行に支障がない限り継続的に換気する。

(5) ベンチ及び周辺の消毒は試合終了毎に行う。各チームは自ベンチを、TO は使用器具を業務終了後に行う。必要に応じて手袋を使用する。

(6) 施設内 (出入り口、トイレ、ウイルスが付着した可能性のある場所等) については、大会役員で消毒を行う。トイレ・手洗い所等に消毒液を準備し、手指消毒を喚起する。

(7) ベンチ等は隣席との身体的距離を確保できるように設置し、ロビー等でもグループ間は一席 (立席の場合 1 m) 空ける。

(8) 観戦は観客席で行う。観客席においても一席空け着席することとし、立ち見による観戦を禁止する。(立ったままのビデオ撮影等も禁止)

3 参加者について

(1) 参加者は、常時マスクを着用する。試合中も、ベンチにいるときは体調に留意しながら、極力マスクを着用する。

(2) 飛沫感染のお恐れがある行為 (大声の応援、指笛、メガホン、楽器の使用、タオルやフラッグを振り回す等) は禁止とする。

(3) アップ時の掛け声や大声を出しての応援 (ベンチからの指示等は飛沫防止に十分配慮する。)、試合前後または試合中の握手、ハイタッチなどの接触は避ける。

(4) その他ソーシャルディスタンスの確保、手洗いの励行など、基本的な衛生エチケット

を遵守する。ごみの持ち帰りを徹底し、特に使用後のマスク等を会場のゴミ箱に捨てない。昼食時などマスクを外すときは、会話をしないように心がける。

(5) 水分をこまめにとるなど熱中症予防を心がける。なお、水分補給を行うときは、各自のペットボトルや使い捨て紙コップなどを用意し、飲み回し等を行わない。

(6) 接触確認アプリ(「新型コロナウイルス接触確認アプリ COCOA」若しくは「京都府新型コロナウイルス緊急連絡サービス こことろ」)を自身のスマートフォンにインストールすることを推奨する。

(7) 入館方法

① チーム関係者、大会関係者(大会役員・審判・視察員・報道関係者等)

ア) 「健康チェックシート」(様式1)を提出し、受付担当者による確認及び検温後、受付名簿に記入、「入場許可証(選手・役員)」を受取り入館する。

イ) 「健康チェックシート」は大会本部で保管する。2日目の入館時は、提出されている「健康チェックシート」により確認を行う。前日の入場許可証の番号を受付担当者に伝える。

② 観客等

入館チェック時に「誓約書」(様式2)を提出し、受付担当者による確認及び検温後、受付名簿に記入、「入場許可証(一般)」を受取りし入館する。「誓約書」は大会本部で保管する。2日目も改めて誓約書を提出する。

(7) 検温

入館時の検温について、非接触式体温計で2度計測しても37.5℃以上の場合は、電子体温計を用いてわきの下で検温する。37.5℃以上の場合は、体調不良者と判断し、入館を辞退する。

(8) 陽性者／濃厚接触者／体調不良者が判明した場合の対応について

JBAガイドライン第5版を参照の上、対応すること。なお、参加チームは、チーム対応フロー(P36～38)を遵守し、感染の恐れがある場合は、チームの出場を辞退する。

上記「体調不良者との接触」には試合中も含み、場合によっては対戦チームに出場辞退となる場合もある。

【体調不良の基準】

1. 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱などの強い症状のいずれかがある場合。
2. 重症化しやすい方（高齢者や基礎疾患がある人）で、発熱やせきなどの比較的軽い風邪症状がある場合。
3. 比較的軽い風邪が続く。

発症から数えて 2 日および症状消失後より数えて 3 日間は活動を休むことを推奨する。

【上記の目安に該当する体調不良者が出た場合のチーム活動について】

発症の前日または前々日までチーム活動があった場合、体調不良者（陽性か陰性かが判断できない）と接触しているため、チーム活動を最低 2 日間行わないことを推奨する。

4 その他

- （1）感染拡大やチーム参加状況により、大会途中でも中止することがある。
- （2）閉会式は、男子決勝後に行い、男女決勝進出チームのみ出席する。3 位表彰は準決勝終了後に試合コートで行う。
- （3）コーチは、選手の練習不足等の影響による傷害の防止に努める。
- （4）本ガイドラインの記載内容は、各チーム代表者から関係者に連絡し、遵守に努める。